

研究評価委員会におけるコメント

第 26 回研究評価委員会（平成 22 年 11 月 11 日開催）に諮り、了承された。研究評価委員会から以下のコメントが出された。

固体酸化物系燃料電池システム要素技術開発（中間評価）

- 固体酸化物系燃料電池の実用化のためには、大型化による高効率化をターゲットにするべきである。今後、大型化を検討する際には、小規模なセル実験では出てこない熱的な問題が出てくることが考えられるので、研究チームに熱の専門家を入れていただきたい。

水素製造・輸送・貯蔵システム等技術開発（中間評価）

- 本プロジェクトは幅広い技術分野を対象としており、全体を統括するプロジェクトリーダーを設置すべきである。

サステイナブルハイパーコンポジット技術の開発（中間評価）

- 分科会で議論になったとおり、工作機械や列車の車両と比較して、自動車は大量生産でコストが厳しく、今ある生産設備を全部置き換えることも難しいので、そこまで考えていろいろな対策、戦略を作っていくことが、自動車を考えた事業化の成功には必要である。